# 幾何学の意味での量子化の一般化 2 固有値としてのホモロジー群系列

郷原 惇平 $^1$ ,廣田 祐士 $^2$ ,稲生 景水 $^1$ ,佐古 彰史 $^1$ 

東京理科大学  $^1$  , 麻布大学  $^2$ 

September 13, 2019

arXiv:1909.02361

### Contents

- 1 モチベーション
- 2 準備
- 3 圏論的固有値
- 4 (コ)ホモロジーと圏論的固有値の関係
- 5 まとめと今後の展望

### モチベーション

いろんな量子化を 1 つの圏の枠組みで捉えることができた。

■ 色々な理論から1つの理論が選択される什組みは圏論の枠組みで作れ

■ 1 例としてハミルトニアン形式のようなものを考えたい .(固有値問

■ いろんな量子化を 1 つの圏の枠組みで捉えることができた.

■ 色々な理論から 1 つの理論が選択される什組みは圏論の枠組みで作れ るか?

■ 1 例としてハミルトニアン形式のようなものを考えたい .(固有値問

## モチベーション

■ いろんな量子化を 1 つの圏の枠組みで捉えることができた.

■ 色々な理論から 1 つの理論が選択される什組みは圏論の枠組みで作れ るか?

■ 1 例としてハミルトニアン形式のようなものを考えたい .( 固有値問 題として扱いたい)

いろんな量子化を1つの圏の枠組みで捉えることができた。

■ 色々な理論から 1 つの理論が選択される什組みは圏論の枠組みで作れ るか?

■ 1 例としてハミルトニアン形式のようなものを考えたい .( 固有値問 題として扱いたい)

■ 固有値問題を扱う圏論的な枠組みが B. Elias. and M. Hogancamp (2017) によって与えられた.

**干チベーション** 

## 数学的準備

### 定義 (複体)

 $\mathscr C$  を加法圏とする. $\mathscr C$  の対象と射の列  $X=\{X^i,d_X^i\}$ 

$$X = \cdots \longrightarrow X^{i-1} \xrightarrow{d_X^{i-1}} X^i \xrightarrow{d_X^i} X^{i+1} \longrightarrow \cdots$$

が条件

$$d_X^i \circ d_X^{i-1} = 0 \quad (\forall i \in \mathbb{Z})$$

を満たすとき,Xを $\mathscr{C}$ における複体という.

#### 定義 (複体の射)

000000

 $\mathscr{C}$  を加法圏とする. $X = \{X^i, d_X^i\}, Y = \{Y^i, d_Y^i\}$  を複体とする.X か らYへの複体の射 $f: X \longrightarrow Y$ とは、 $\mathscr C$  の射の列 $f = \{f^i \in \mathscr C(X^i, Y^i)\}$ であって、可換性

$$f^{i+1}\circ d_X^i=d_Y^i\circ f^i\quad (\forall i\in\mathbb{Z})$$

が成り立つ.複体の射の合成について, $X\stackrel{f}{\longrightarrow} Y\stackrel{g}{\longrightarrow} Z$  を複体の射とす るとき,合成を

$$g \circ f := \{ g^i \circ f^i \}$$

で定義し,複体の恒等射を,

$$id_X = \{id_{X^i}\}$$

で与える.

#### 定義 (複体の圏)

加法圏  $\mathscr C$  に対して,複体を対象とし,複体の射を射とする圏を複体の圏と いい,  $C(\mathscr{C})$  で表す.

#### 定義 (シフト関手)

 $X = \{X^i, d_X^i\}$  を圏  $\mathscr C$  の複体とする  $n \in \mathbb Z$  に対して X を n シフトし た複体 *X*[n] を

$$X[n]^i = X^{i+n}, \quad d^i_{X[n]} = (-1)^n d^{i+n}_X$$

により

$$X[n]\colon \cdots \longrightarrow X^{i-n+1} \xrightarrow{(-1)^n d_X^{i-1+n}} X^{i+n} \xrightarrow{(-1)^n d_X^{i+n}} X^{i+1+n} \longrightarrow \cdots$$

と定義する.

000000

### 定義 (写像錘)

 $f\colon X\longrightarrow Y$  を加法圏  $\mathscr C$  における複体の射とする.このとき  $\{Z^i,d^i_{\mathscr C}\}$  を ,

$$\begin{split} Z := X[1] \oplus Y, \quad Z^i &= X^{i+1} \oplus Y^i \\ d_Z^i &= \left[ \begin{array}{cc} -d_{X[1]}^i & 0 \\ f^i[1] & d_Y^i \end{array} \right] = \left[ \begin{array}{cc} -d_X^{i+1} & 0 \\ f^{i+1} & d_Y^i \end{array} \right] \end{split}$$

により定義すると  $Z = \{Z^i, d_Z^i\}$  はまた複体となる . これを f の写像錘 といい Cone(f) で表す.

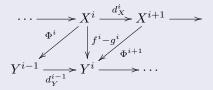
#### 定義 (ホモトピー)

000000

 $\mathscr C$  を加法圏, $X=\{X^i,d_X^i\},Y=\{Y^i,d_Y^i\}$  を  $\mathscr C$  の複体, $f,g\colon X\longrightarrow Y$ を複体の射とする.このとき f から q へのホモトピー  $\Phi$  とは,射の列  $\Phi = \{\Phi^i \colon X^i \longrightarrow Y^{i-1}\}$  であって,

$$f^{i} - g^{i} = d_{Y}^{i-1} \circ \Phi^{i} + \Phi^{i+1} \circ d_{X}^{i} \quad (\forall i \in \mathbb{Z})$$

を満たす. すなわち,



f から g へのホモトピーが存在するとき , f は g にホモトピックであると いい ,  $f\sim g, f \underset{\pi}{\sim} g$  とかく . 特に  $f\sim 0$  をヌルホモトピックであると いう.

#### 定義(ホモトピー圏)

 $\mathscr C$  をプレ加法圏とし, $C(\mathscr C)$  をその複体のなす圏とする.すべての $X,Y\in ob(C(\mathscr C))$  に対して,

$$\mathcal{N}_{X,Y} := \{ f \in C(\mathcal{C})(X,Y) | f \sim 0 \}$$

とする.この時,ホモトピー圏 $K(\mathscr{C})$ を

$$K(\mathscr{C}) := C(\mathscr{C})/\mathscr{N}$$

で定める.

#### 定義 (ホモトピー<u>同値)</u>

圏  $\mathscr C$  の複体  $X,Y\in ob(C(\mathscr C))$  に対して,その間の射  $f\in C(\mathscr C)(X,Y), g\in C(\mathscr C)(Y,X)$  とホモトピー  $\Phi,\Psi$  が存在して,

$$g \circ f \underset{\Psi}{\sim} id_X, \quad f \circ g \underset{\Phi}{\sim} id_Y$$

が成り立つとき,XとYはホモトピー同値といい, $X \simeq Y$ で表す.

### 圏論的固有値

•0

圏論的固有値について B. Elias. and M. Hogancamp (2017) を基に review を行う.以下, $\mathscr{K}$ を可換環の圏, $\mathscr{A}$ を代数の圏(モノイダルホモトピー 

#### 定義 (固有対象)

複体  $F \in ob(\mathscr{A})$  を固定する  $\lambda \in ob(\mathscr{A})$  に対して  $\alpha \in \mathscr{A}(\lambda, F)$  が存在 し, $\alpha \otimes id_M: \lambda \otimes M \to F \otimes M$  がホモトピー同値を与えるとき,  $M(\neq 0) \in \mathscr{V}$  を F の  $\alpha$  による固有対象と呼ぶ.

#### 命題

複体  $F \in ob(\mathscr{A})$  を固定する  $\mathscr{A}$  の対象  $\lambda$  と射  $\alpha: \lambda \to F$  に対して ,  $M \in ob(\mathscr{V})$  が固有対象であることは ,  $\operatorname{Cone}(\alpha) \otimes M \simeq 0$  と同値である .

## 例:可換環の固有値 |

可換環 A を ,  $A = \mathbb{Z}[x]/(x^2-1)$  とし , A 加群の複体として ,

$$F = (0 \longrightarrow \underline{A} \xrightarrow{x-1} A \xrightarrow{\varepsilon} \mathbb{Z} \longrightarrow 0)$$

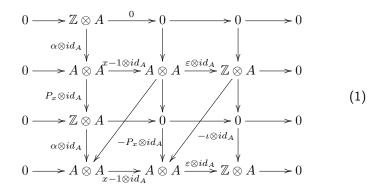
を考える.ここで,下線は複体の列の0番目を表し, $\varepsilon$ は  $\varepsilon(ax+b)=a+b$  で定義する.このとき,写像  $\mathbb{Z}\longrightarrow A.1\mapsto 1+x$  は複 体の射  $\alpha \colon \mathbb{Z} \longrightarrow F$  を誘導する.ただし, $\mathbb{Z}$  は0 番目が $\mathbb{Z}$  で他は0 の複体 であるとする.この  $\alpha$  に対する写像錘  $Cone(\alpha)$  は

$$0\oplus \mathbb{Z}=\mathbb{Z}, 0\oplus A=A, \mathbb{Z}\oplus 0=0$$
 より ,

$$\operatorname{Cone}(\alpha) = \mathbb{Z}[1] \oplus F = (0 \longrightarrow \mathbb{Z} \xrightarrow{x+1} \underline{A} \xrightarrow{x-1} A \xrightarrow{\varepsilon} \mathbb{Z} \longrightarrow 0)$$

### 例:可換環の固有値 ||

と書ける.このとき A が固有対象ということを確かめる.すなわち  $\alpha \otimes id_A : \mathbb{Z} \otimes A \xrightarrow{\sim} F \otimes A$  であることを示す.ホモトピーの自明なもの は省略し,次のような図式を得る.



## 例:可換環の固有値 |||

ここで, $\iota:\mathbb{Z}\longrightarrow A$  を埋め込み, $P_x\colon A\longrightarrow A$  を  $P_x(ax+b)=a$  と定義する.すると,上の図式は可換になることがわかる.

また, $\mathrm{Cone}(lpha)\otimes A\simeq 0$  となることを確認する. $\mathrm{Cone}(lpha)=\mathbb{Z}[1]\oplus F$  であるから,

$$\operatorname{Cone}(\alpha) = (0 \longrightarrow \mathbb{Z} \longrightarrow A \longrightarrow A \longrightarrow \mathbb{Z} \longrightarrow 0)$$

となり,

$$\operatorname{Cone}(\alpha) \otimes A = (0 \longrightarrow \mathbb{Z} \otimes A \longrightarrow A \otimes A \longrightarrow A \otimes A \longrightarrow \mathbb{Z} \otimes A \longrightarrow 0)$$

### 例:可換環の固有値 IV

を得る.このとき  $\operatorname{Cone}(\alpha) \otimes A \simeq 0$  が言えればよい.すなわち ,

$$0 \longrightarrow \mathbb{Z} \otimes A \xrightarrow{\alpha \otimes id_A} A \otimes A \xrightarrow{x-1 \otimes id_A} A \otimes A \xrightarrow{\varepsilon \otimes id_A} \mathbb{Z} \otimes A \longrightarrow 0$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad$$

が可換になることを示せばよいが,図式2の射は,図式1と同じ射なので 可換であることは明らかである.

#### 定理 (J.G., Yuji Hirota, Ino Keisui and Akifumi Sako (2019))

 $\mathscr{A}$  をモノイダルホモトピー圏とし,複体  $F \in ob(\mathscr{A})$  を固定する

$$F = (\cdots \to F_{n-1} \xrightarrow{\tilde{d}_{n-1}^F} F_n \xrightarrow{\tilde{d}_n^F} F_{n+1} \to \cdots).$$

また、複体  $\lambda \in \mathcal{A}$  を次のように与える

$$\lambda = (\cdots \to \lambda_{n-1} \xrightarrow{0} \lambda_n \xrightarrow{0} \lambda_{n+1} \to \cdots).$$

このとき  $\alpha := \{f_n : \lambda_n \to (\operatorname{Im} \tilde{d}_{n-1}^F)^{\perp} \subset F_n\} \in \mathscr{A}(\lambda, F)$  に対して,  $\operatorname{Cone}(\alpha) \simeq 0$  が満たされるのは , 任意の n に対して  $\lambda_n$  が F のコホモロ ジー群と同型の時, すなわち

$$\lambda_n = \frac{\ker \tilde{d}_n^F}{\operatorname{Im} \tilde{d}_{n-1}^F} = H_n(F)$$

が成り立つときに限る.

双対の場合についてもホモロジー群としてこの命題が成り立つ、ただし、 写像錘のシフトは -1 となることに注意.

## 例: $S^1$ のホモロジー群 lacktrian

複体  $F \ge \lambda$  をそれぞれ以下のように与える

$$F = (0 \longrightarrow C_1(S^1) \longrightarrow C_0(S^1) \longrightarrow 0),$$
  

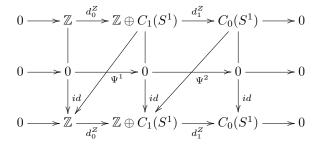
$$\lambda = (0 \longrightarrow H_1(S^1) \longrightarrow H_0(S^1) \longrightarrow 0)$$
  

$$= (0 \longrightarrow \mathbb{Z} \stackrel{0}{\longrightarrow} \mathbb{Z} \longrightarrow 0).$$

 $S^1$  の三角形分割  $\triangle ABC$  を考え, $C_1(S^1)$  の基底として  $\triangle ABC$  の三辺,  $C_0(S^1)$  の基底として [B] - [A] , [C] - [B], [A] をそれぞれ選ぶ.以下の

(コ) ホモロジーと圏論的固有値の関係

#### 図式に対して



# 例: $\overline{S^1}$ のホモロジー群 oxdots

(コ) ホモロジーと圏論的固有値の関係

#### それぞれの射とホモトピーを

$$d_0^Z = {}^t (0, 1, 1, 1), \quad d_1^Z = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix},$$

$$\Psi^1 = (0, 0, 0, -1), \quad \Psi^2 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & -1 \\ -1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

## 例: $S^1$ のホモロジー群 $\mathsf{IV}$

とすると,  $Cone(\alpha) \simeq 0$  となる. 実際,

$$\begin{split} \Psi^1 \circ d_0^Z &= -1, \\ \Psi^2 \circ d_1^Z + d_0^Z \circ \Psi^1 &= \begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}, \\ d_1^Z \circ \Psi^2 &= \begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}. \end{split}$$

■ 例としてある複体の圏論的固有値として(コ)ホモロジー群が得ら

物理的な意味を持つ例を作っていきたい

例えば BRST コホモロジー?

■ 例としてある複体の圏論的固有値として(コ)ホモロジー群が得ら れた.

物理的な意味を持つ例を作っていきたい

例えば BRST コホモロジー?

■ 例としてある複体の圏論的固有値として(コ)ホモロジー群が得ら れた.

■ 物理的な意味を持つ例を作っていきたい

例えば BRST コホモロジー?

■ 例としてある複体の圏論的固有値として(コ)ホモロジー群が得ら れた.

■ 物理的な意味を持つ例を作っていきたい

■ 例えば BRST コホモロジー?

### References I

- [1] A. Chandler, N. Karnick, D. Vagner: Categorical diagonalization. A chapter in the MSRI Proceedings: Soergel Bimodules.
- [2] B. Elias. and M. Hogancamp: Categorical diagonalization. arXiv:1707.04349v1.
- [3] B. Elias. and M. Hogancamp: Categorical diagonalization of full twists arXiv:1801.00191v1.
- [4] J. Gohara, Y. Hirota, K. Ino and A. Sako: *Homology groups and categorcal diagonalization* arXiv:1909.02361

ご清聴ありがとうございました.